

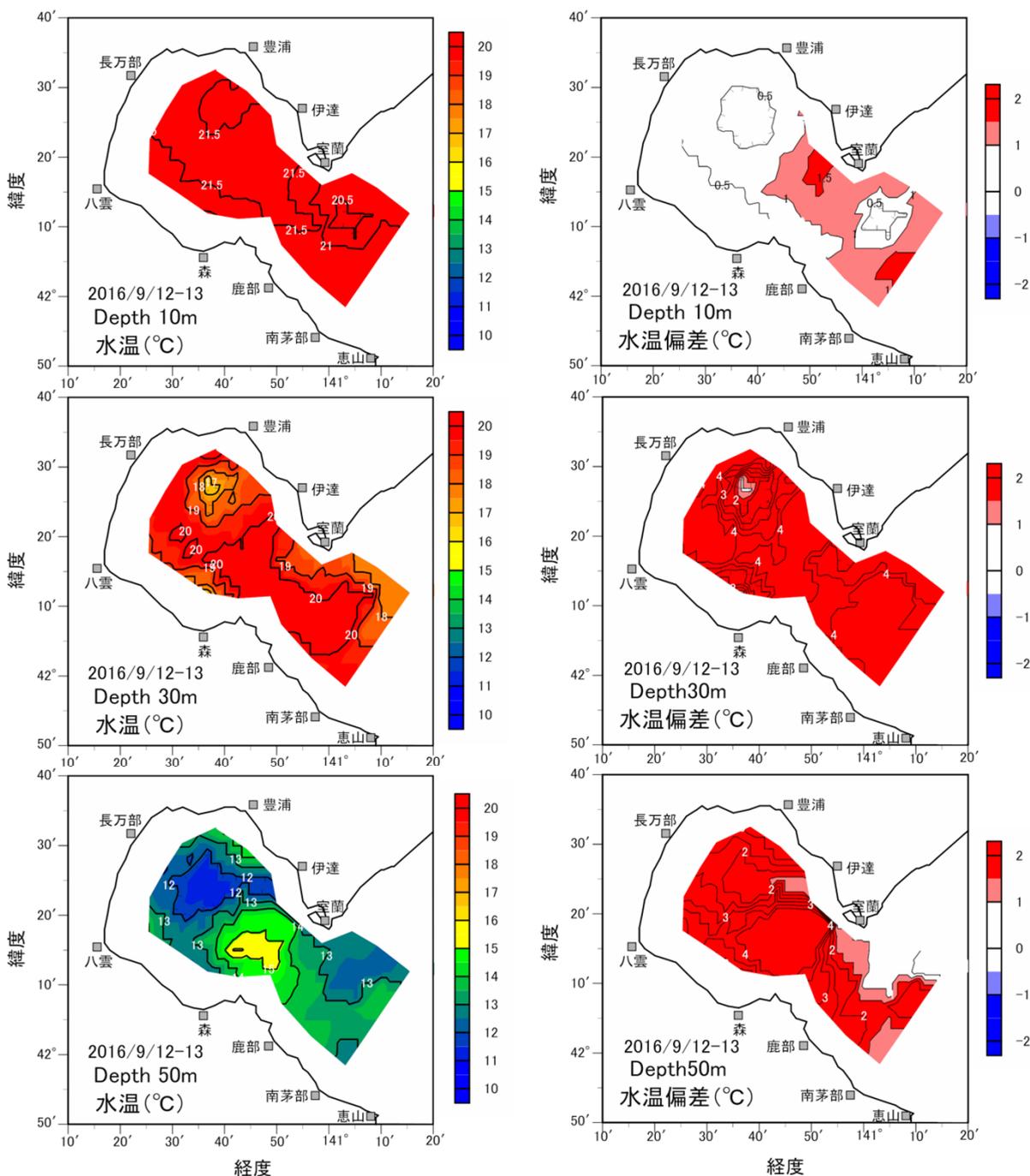
噴火湾環境情報 NO.1

2016/9/20

湾内水温， 平年よりも高め!!

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当: 西田, 渡野 邊

2016年9月12~13日にかけて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。図1左に示す水温の水平分布から、湾内外ともに、10m, 30m深水温は20~21℃, 50m深水温は12~15℃となっています。湾内の水温偏差では(右図), 10m深水温は平年並ですが、30m, 50m深水温は平年より2~4℃高くなっています。噴火湾を縦断する断面での水温、塩分の鉛直分布から(図2), 湾外表層水(図中点線)と同じ水塊が湾内の垂表層に分布しています。したがって、湾内の30m 深水温が平年よりも高



* 水温の平均期間: 2006~2014年

図1 噴火湾およびその周辺海域における(左)水温, (右)水温偏差の水平分布

かったのは、湾外表層水が湾内に流入したためと考えられます(図中白矢印参照)。また、湾内の50m 深水温が平年よりも高かったのは、湾内底層の塩分が33.6と前回の観測時(6月)よりも高塩分化していることから、津軽暖流水の流入によるものと考えられます。

噴火湾底層の溶存酸素量は(図3)、湾中央部で周囲よりも低くなっていますが、貧酸素水塊(指標:溶存酸素量3ml/l以下)の形成はみられていません。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。観測期間中、10~15m/sの南東風が連吹しており、スナッフショットですが、ヤマセが吹いたときの循環を捉えることができました。上層(左図)では、豊浦から森にかけて岸に沿った流れが卓越しますが、湾口部の時計回りの渦により、この流れは湾外には至りません。一方下層(右図)では、湾内(外)から湾外(内)へ至る流れが明瞭に認められます(図の矢印参照)。ヤマセが吹いたときの海水交換は下層ほど大きいことが推察されます。次回の調査は12月を予定しています。

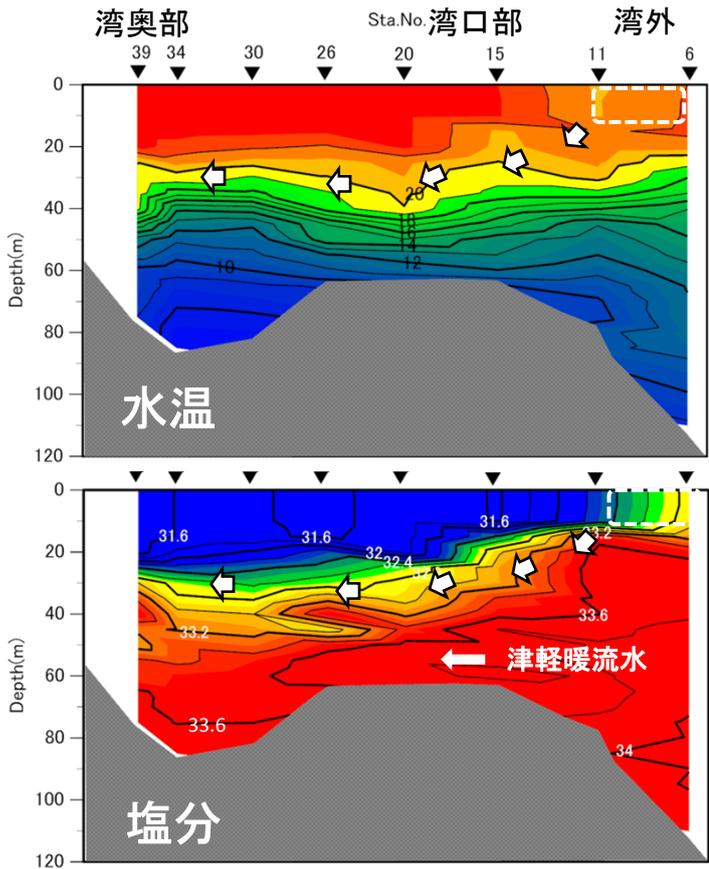


図2 噴火湾を縦断する断面での(上)水温(下)塩分分布

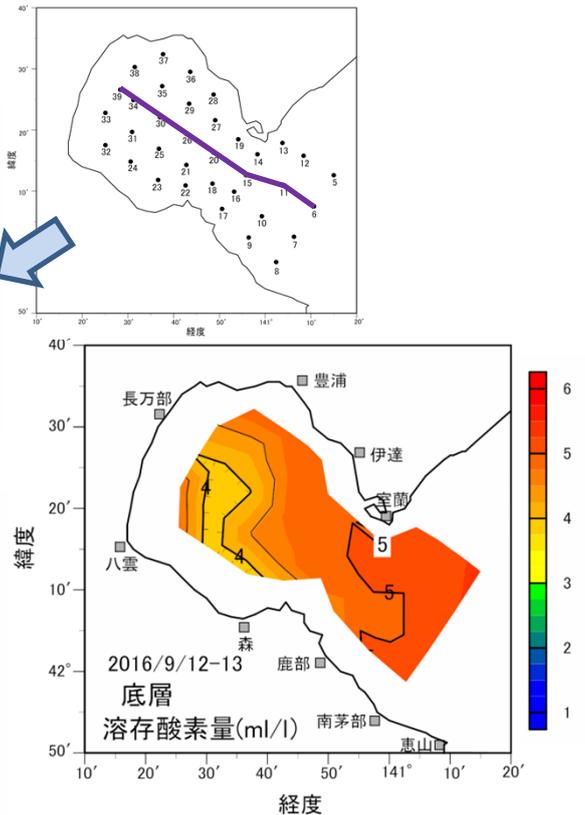


図3 噴火湾およびその周辺海域における底層の溶存酸素量

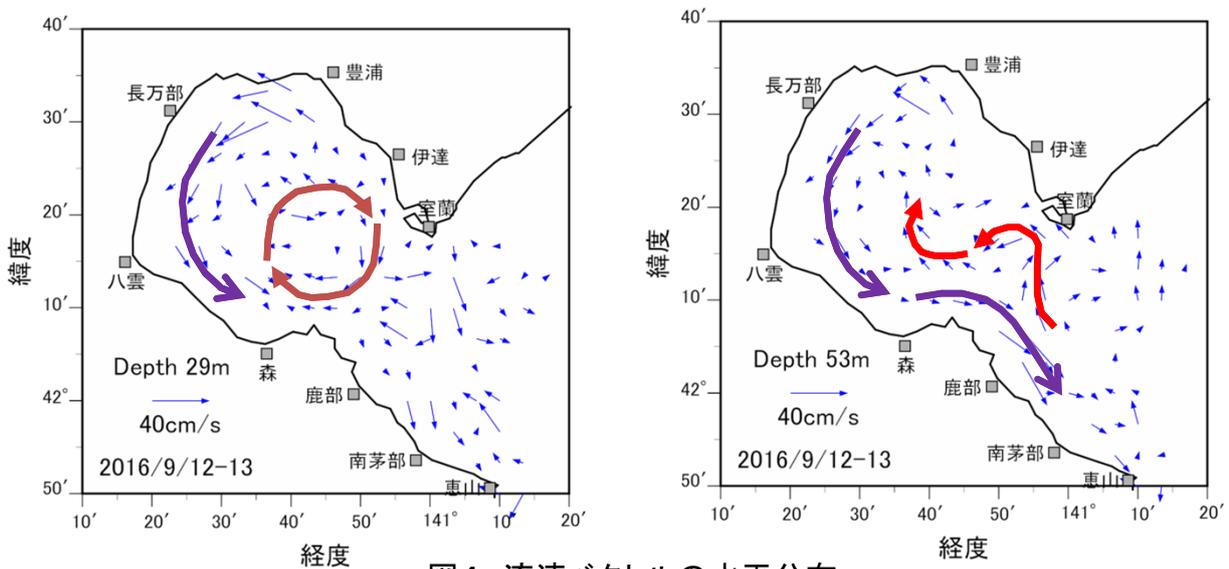


図4 流速ベクトルの水平分布